



# 耕作放棄地解消の取り組みについて

株式会社松野町農林公社 代表取締役 毛利 伸彦 (北宇和郡松野町)

## 地域の概要

松野町では、昭和50年からの県営農地開発事業により110haの新しい農地ができ、桃をはじめ茶や柚子等が植栽され、特に桃は県内有数の産地となっています。桃、茶は販売ルートの多様化により農家所得の増大がみられるものの、樹勢や地力の衰えなどによる収量の低下、あるいは担い手不足による放任園が少しずつ見られるようになりました。また水田においても、基盤整備の推進や減農薬米に取り組み、消費者ニーズも踏まえた農業に取り組んでいますが、農業従事者の高齢化により遊休農地が始めています。谷田・棚田など未整備田を中心に農地の荒廃が見られるようになり、農林業経営の維持進展に困難をきたすことが危惧されています。

への支援、担い手となる農業者の育成確保を目指して、第3セクター株式会社松野町農林公社が設立されました。

## 株式会社松野町農林公社の概要

株式会社松野町農林公社は町内農家への支援育成と新規就農者の確保育成を行いながら、これまでの「作る農業」から、多様な消費者ニーズに直接応えうる一貫した企業の農業や、高付加価値・省力型農業など、地域農業の活性化に取り組んでいます。

平成22年6月に、要件を満たし「農業生産法人」となり、目標としている優良農地の保全、既存農家への支援や担い手となる農業者の育成確保対策の一環として、以下の5つの事業を行っています。

- ① 野菜や花の苗を生産販売する「育苗事業」
- ② 水稲や各種農作業を受託し農家の支援を行う「アグリレスキュー事業」
- ③ 水耕栽培施設を備えたハウスにおいて



トマトの生産販売や新規就農を目指す営農希望者を農業研修生として受け入れる「ハウス事業」

- ④ 特産品の開発を目指す「特産品事業」
- ⑤ 当町の特産品である梅加工場の運営を行う「梅事業」

## 耕作放棄地の再生

公社は、これまで上記の③の施設を利用した水耕栽培技術を中心に組み組んでまいりましたが、耕作放棄地を農地として再生する場合には、「耕作放棄地再生利用交付金」という制度がある事を知り、平成22年度に、野菜等を試験的に植栽する場所として早速町から農地を借り受け、事務所付近の耕作放棄地を再生しました。再生出来た面積は8aほどでしたが、研修用の農地としてうまく再生することができ、現在でも研修用の野菜畑として利用しています。

平成24年には、特産品事業で栽培を行っていたブルーベリーの増産を検討して

いたところ、農家の方から  
会社に「高齢で畑の管理が  
できないので管理をお願い  
できないか」との相談を寄  
せられ、その農地が比較的  
ブルーベリー栽培に適した  
農地であったこともあり、  
41aを再生させる事ができ  
ました。当社として初めて  
の農地の荒廃を防ぐ意味も  
込めた農地の再生となり、  
長年耕作していなかった農  
地は土地が酸性土壌化して  
いるため土壌改良が必要と



再生前の耕作放棄地



再生後の耕作放棄地

なりましたが、この土壌改良にも交付金  
事業を活用させていただきました。  
その後、町から新たに梅加工場の運営  
を委託され、町内の梅の生産量減少を防  
ぐため、梅の栽培園地を探していたこ  
ろ、町内の農家から耕作放棄地を梅栽培  
の候補地として検討してもらいたいとの  
相談も受け、公社としても優良農地を守  
るという役割を果たすべく、耕作放棄地  
を借受ける農地の候補とするようにな  
りました。  
平成25年度には、今後更に農地の維持  
が困難になる見込みがあるため、高齢者  
でも営農しやすく、安定した収入を確保  
できる作

物の普及  
が必要不  
可欠と考  
え、高知  
県高岡郡  
越知町で  
広く栽培  
されている  
葉草の  
ミシマサ  
イコ(※  
セリ科の  
植物で、  
根を生薬  
として用  
い、解熱、  
鎮痛剤作

用がある。)をお手本にし、新たに34aほ  
どの耕作放棄地を復旧して葉草を植栽し  
ました。  
そして平成26年度には、「地域おこし  
協力隊」制度を活用し、農業で地域おこ  
しを行おうとする当町にも3名来ていた  
いただきました。その協力隊の活動の場を確  
保するために、耕作放棄地となっている  
茶畑と花木農地92aを再生し、桃を植栽  
したところです。  
**地域の再生を目指して**  
耕作放棄地再生利用交付金事業を通じ  
てこれまでに、約2haの農地を復旧する  
事が出来、今年度は更に1haの農地の復  
旧を計画しております。これまで再生し  
てきた農地は、町内の農地からすればわ  
ずかな面積ではありますが、農地を復旧  
させたという実績は大きく、町内の農家  
からは今後の働きにさらなる期待が寄せ  
られています。  
ですが、公社の人員にも限りがあり、  
これから農地をどんどん増やしていく  
事は難しい状況です。今後の課題として  
は、これから行政とともに協力しあって  
優良農地の再生に取り組み、地域農業の  
模範となる農業経営の形を提示する事、  
さらに、地域の営農者がその技術や知識  
を引き継ぎ、拡大、発展させていく事を  
目標に、地道な活動に取り組んでまいり  
たいと思います。